

現地研修

日本生物教育会 第77回全国大会 大阪大会 2023
— 現地研修F 海遊館コース 報告 —

大阪府立春日丘高等学校 定時制の課程 西元 里美

令和5年8月11日(金) 13:00~17:00

参加者: 19名 + 係2名

現地研修Fコースでは、バスで海遊館へ移動し、サメの解剖実習をメインとした研修を行った。特に、進化の観点より軟骨魚と硬骨魚の違い(外部形態と内部器官)に注目してサメの解剖を実施した。

まず、魚類環境展示チーム 藤田かおり氏より、「理科教育における海遊館の活用」についてご講義いただいた。海遊館の概要説明と、日本の水族館の役割(調査・研究、種の保存、環境教育、レクリエーション)についてお話していただいたのち、高校生を対象とした魚に関するアンケート結果を基にして、水族館でできる理科教育についての提案や問題提起していただいた。高校生100人程度を対象としたアンケートでは、サメのヒレを図示する問題で正答率は3%、タイのヒレでは正答率0%という結果であった。高校生になると、水族館に、たまには行くという回答は31%で、めったに行かないという回答が68%である。学校と水族館とで協働していける余地がまだまだあるのかもしれないと感じた。

次に、魚類環境展示チーム 村田幹斗氏を講師として、魚類搬入口前の冷房のない半野外で、1時間程度の解剖実習を行った。



(写真) 解剖中のハナザメ

5人ずつの4グループに分かれ、グループに1尾ずつ、ハナザメ(メジロザメ目メジロザメ科)とキダイ(スズキ目タイ科)を用意していただいた。このサメは、日頃から海遊館とつながりのある、高知県土佐清水市以布利の定置網漁から入手したもので、数か月前から準備し海遊館で冷凍保存したものを使用した。解剖の前に、グループごとにサメの計測を行った。今回は、全長、尾鰭前長(体長)、体高、体重の4計測を体験した。解剖では、サメの特徴である大きな肝臓や、“螺旋腸”と呼ばれる腸の形態などを観察した。螺旋腸の中には、未消化のイカやアジを観察することもできた。キダイも同様に解剖し、内部器官の比較を行った。ちなみに、解剖後のサメやタイは細かく刻み、展示水槽にいるタカアシガニの餌として利活用されるそうだ。

再び講義室へ移動し、魚類環境展示チーム 芳井祐友氏より「体形やヒレの特徴から魚の生きざまを探る」と題してご講義いただいた。実物標本を用いた実践的学習を提示していただき、体形や鰭の特徴が、魚にどのように作用するかを学べるコンテンツとして実物標本が有効であることを実感できた。

さらに、グループディスカッションを行い、都道府県を超えて、解剖実習を授業で行っているのか、その意義はどんなところにあるか等を意見交換した。また、高校と水族館とで、どのような連携を行えるのか、海遊館の方も交えながら、双方に有意義なディスカッションができた。

最後に、バックヤードとして巨大水槽を真上から観察したのち、展示施設の自由見学の形で解散となった。海遊館の方、ご参加いただいた先生方に厚くお礼申し上げます。